



# 寒川町総合計画2040第2次実施計画の修正について (令和8年度以降分)

2026年2月5日

企画政策課企画マーケティング担当



# 修正の基本的な考え方

第2次実施計画については、計画の柔軟性を高め、効果的・効率的な施策推進を図るため、毎年度ごとに施策・事務事業の方向性や指標等の見直しを行うことが出来るものとしている。

項目	考え方	備考
町民ニーズ		
内容の追加	可	
内容の削除	不可	
町を取り巻く環境(課題等)		
内容の追加	可	
内容の削除	不可	
施策		
「施策目標(目指す姿)」の変更	可	町民ニーズや環境を踏まえ、基本目標や政策を達成するための改善に限る。
「目標指標」の追加	可	選択と集中の観点から5つ以上となる場合は不可。
「目標指標」の変更	可	特段の理由があり、既存の指標と整合がとれる新たな指標を追加する場合に限る。
「目標指標」の削除	不可	
「目標指標」数値の変更(上方修正)	可	
「目標指標」数値の変更(下方修正)	可	相当な理由や事情により実態と乖離が大きく、修正後の設定においては適切な数値設定の根拠が示される場合に修正する。
「目標指標」数値の変更(測定対象の拡大)	可	

# 修正の基本的な考え方

項目	考え方	備考
事務事業		
「事務事業」の追加	可	
「事務事業」の削除	不可	
「取組概要」の修正	可	
「目標指標」の追加	可	選択と集中の観点から5つ以上となる場合は不可。
「目標指標」の変更	可	特段の理由があり、既存の指標と整合がとれる新たな指標を追加する場合に限る。
「目標指標」の削除	不可	
「目標指標」数値の変更(上方修正)	可	
「目標指標」数値の変更(下方修正)	可	相当な理由や事情により実態と乖離が大きく、修正後の設定においては適切な数値設定の根拠が示される場合に修正する。
「目標指標」数値の変更(測定対象の拡大)	可	
その他		
その他	可	SDG 's追加

# 修正概要

修正番号	総合計画	総合戦略	位置づけ	担当課	変更箇所	変更内容
1	○	○	(総合計画) 基本目標1 政策1 施策3 学校教育の推進 グローバル教育推進事業 (総合戦略) 基本目標4 施策6 魅力的な教育環境の充実	学校教育課	事務事業	「目標指標」数値の変更(上方修正)
2	○		(総合計画) 基本目標2 政策2 施策1 地域福祉の充実 地域福祉推進事業	福祉課	施策 事務事業	「目標指標」数値の変更(上方修正)
3	○		(総合計画) 基本目標4 政策1 施策2 消防団体制の充実 消防団充実強化事業	町民安全課	事務事業	「目標指標」数値の変更(その他)
4	○		(総合計画) 基本目標5 政策2 施策1 市街地整備の推進 寒川駅南口整備事業	都市整備課	事務事業	「目標指標」数値の変更(その他)
5		○	(総合戦略) 基本目標2 施策4 結婚を希望する方への支援	子ども政策課	施策	「KPI」項目の変更 「KPI」数値の変更(下方修正)

# 修正1 基本目標1 政策1 施策3学校教育の推進 グローバル教育推進事業

**修正概要** 「目標指標」数値の変更(上方修正) ※総合戦略においても同内容で修正

**変更理由** 事業の定着と着実な成果を踏まえ、町の魅力ある教育としての価値をさらに高めるため、段階的に目標を引き上げる。

(旧)

① グローバル教育推進事業					
<b>【事務事業目標】</b> グローバル化に対応した外国語教育の推進を通して、積極的にコミュニケーションをとることができている。 課題解決に向けて、ICT機器を活用しながら、自ら考え取り組むことができている。	<b>【目標指標（単位）】</b>				
	FLTの先生との授業で外国語を楽しく学んだ子どもの割合（％）				
	基準年	R7	R8	R9	R10
	91 (R5)	90	90	90	90
	生徒の英語検定等の資格試験の受検率（％）				
<b>【取組概要】</b> FLTの全校常駐配置や英語資格試験の助成制度などを通して外国語教育のさらなる推進を行います。 ICT機器を効果的に活用した授業の展開を行います。	基準年	R7	R8	R9	R10
	8 (R5)	12	16	20	24
	ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う子どもの割合（％）				
	基準年	R7	R8	R9	R10
	94 (R5)	90	90	90	90

(新)

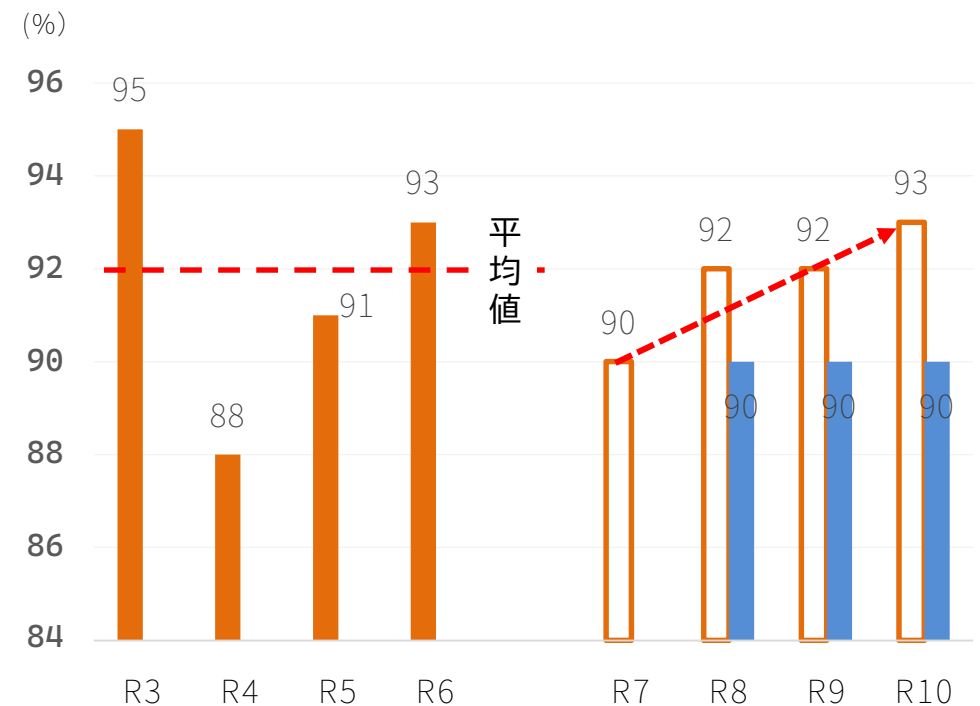
① グローバル教育推進事業					
<b>【事務事業目標】</b> グローバル化に対応した外国語教育の推進を通して、積極的にコミュニケーションをとることができている。 課題解決に向けて、ICT機器を活用しながら、自ら考え取り組むことができている。	<b>【目標指標（単位）】</b>				
	FLTの先生との授業で外国語を楽しく学んだ子どもの割合（％）				
	基準年	R7	R8	R9	R10
	91 (R5)	90	<b>92</b> 策定時 90	<b>92</b> 策定時 90	<b>93</b> 策定時 90
	生徒の英語検定等の資格試験の受検率（％）				
<b>【取組概要】</b> FLTの全校常駐配置や英語資格試験の助成制度などを通して外国語教育のさらなる推進を行います。 ICT機器を効果的に活用した授業の展開を行います。	基準年	R7	R8	R9	R10
	8 (R5)	12	16	20	24
	ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う子どもの割合（％）				
	基準年	R7	R8	R9	R10
	94 (R5)	90	<b>94</b> 策定時 90	<b>94</b> 策定時 90	<b>95</b> 策定時 90

## 事務事業 目標指標

### 『FLTの先生との授業で外国語を楽しく学んだ子どもの割合』

- ✓ FLT（外国人指導者）の学校常駐配置により、英語学習を好きな児童・生徒の割合は高い水準で維持し、R5年度には91%に達するなど成果を挙げています。
- ✓ 第2実施計画における目標値については、アンケート対象者が毎年変わることを考慮し、R7年度は90%の高い水準の維持を基本としつつ、その後はR8・9年度92%、R10年度93%と段階的に向上させる目標に見直しました。
- ✓ 外国語学習が苦手な児童・生徒の割合を計画的に減少させるため、FLTとの日常的交流を通じた外国語学習への関心喚起を継続して推進していきます。

### 目標指標の実績と目標値

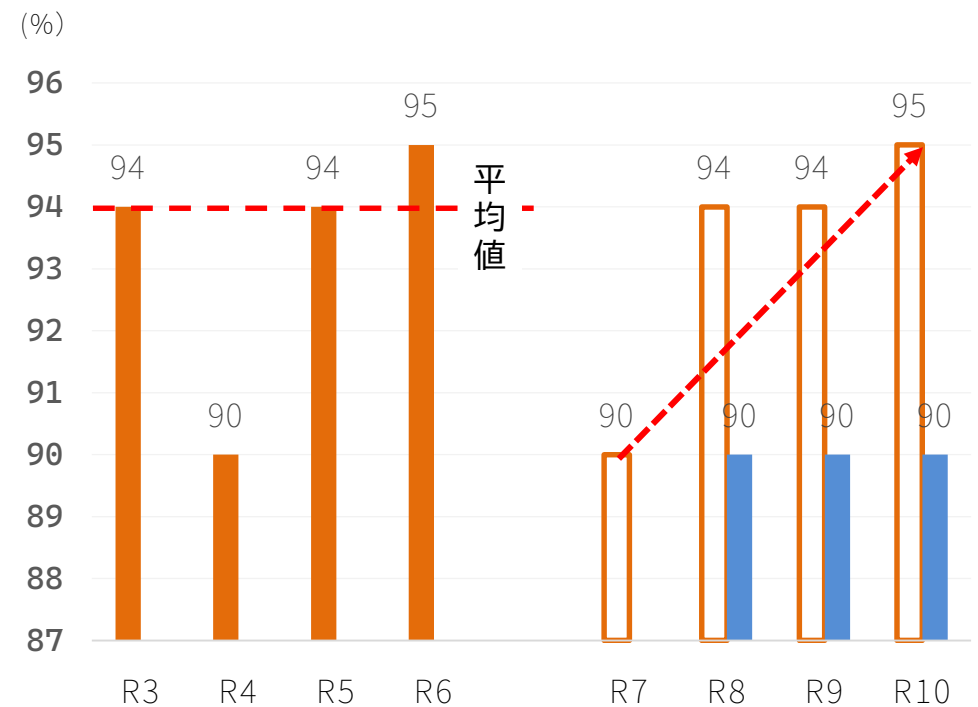


## 事務事業 目標指標

### 『ICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う子どもの割合』

- ✓ GIGAスクール構想による一人1台端末の整備により、ICT機器を活用した授業が定着し、R5年度には児童・生徒の94%がICT機器の活用に肯定的な評価を示しています。
- ✓ 第2実施計画における目標値については、アンケート対象者が毎年変わることを考慮し、R7年度は90%の高い水準の維持を基本としつつ、その後はR8・9年度94%、R10年度95%と段階的に向上させる指標に見直しました。
- ✓ 児童・生徒がICT機器活用による学習効果を実感できる成功体験を増やし、その成果を保護者や学校全体に共有することで、学びに直結する使いやすいICT環境の構築を計画的に推進していきます。

目標指標の実績と目標値



修正概要 「目標指標」数値の変更(上方修正)

変更理由 物価高を要因とした生活困窮に関する相談が見込みより増加したこと、また、抱える問題が複雑化、複合化してきている中で、相談先である窓口が浸透してきていることにより、相談支援件数が当初の見込みより高まっている。よって、計画の目標数値を再推計したとともに、それに合わせた施策指標の変更としている。

(旧)

① 地域福祉推進事業					
<b>【事務事業目標】</b> 町民が積極的に相談している。 町民の複雑化・複合化した困りごとが解決されている。	【目標指標（単位）】				
	包括的な相談支援件数（件）				
	基準年	R7	R8	R9	R10
	31 (R5)	35	40	45	50
<b>【取組概要】</b> 誰にとってもわかりやすい総合相談窓口を設置します。 支援機関間で連携します。					

※ R7 見込み 75件

(新)

① 地域福祉推進事業					
<b>【事務事業目標】</b> 町民が積極的に相談している。 町民の複雑化・複合化した困りごとが解決されている。	【目標指標（単位）】				
	包括的な相談支援件数（件）				
	基準年	R7	R8	R9	R10
	31 (R5)	35	<b>80</b> 策定時 40	<b>90</b> 策定時 45	<b>100</b> 策定時 50
<b>【取組概要】</b> 誰にとってもわかりやすい総合相談窓口を設置します。 支援機関間で連携します。					

修正概要 「目標指標」数値の変更(上方修正)

変更理由 物価高を要因とした生活困窮に関する相談が見込みより増加したこと、また、抱える問題が複雑化、複合化してきている中で、相談先である窓口が浸透してきていることにより、相談支援件数が当初の見込みより高まっている。よって、計画の目標数値を再推計したとともに、それに合わせた施策指標の変更としている。

【施策目標（目指す姿）】

町民の複雑化・複合化した生活課題が解決されている。

※ R7 見込み 14件

(旧)

【目標指標（単位）】	基準年	R7	R8	R9	R10
支援機関の連携回数（件）	7 (R5)	10	13	16	19



【施策目標（目指す姿）】

町民の複雑化・複合化した生活課題が解決されている。

(新)

【目標指標（単位）】	基準年	R7	R8	R9	R10
支援機関の連携回数（件）	7 (R5)	10	<b>16</b> 策定時 13	<b>19</b> 策定時 16	<b>22</b> 策定時 19

修正概要 「目標指標」数値の変更(上方修正)  
 変更理由 わかりやすい標記とするため。

(旧)

① 消防団充実強化事業					
<b>【事務事業目標】</b> 消防団員の平均年齢が引き下がっている。 大規模災害（地震・風水害等）時に適切な活動ができるように、大規模災害に備えた体制が確立している。	【目標指標（単位）】				
	新規入団者数（人）				
	基準年	R7	R8	R9	R10
	6（R5）	7	7	8	8
<b>【取組概要】</b> 実災害を想定した教育・訓練の提供を入団のメリットとしていきます。また、消防団の防災業務の中心を担う防災士の取得者数の増加、地域の防災訓練指導の回数を増加させ、消防団の防災力を強化していきます。	20～30代の新規入団者数（人）				
	基準年	R7	R8	R9	R10
	6（R5）	4	4	5	5
	消防団の防災士取得者数（人）				
基準年	R7	R8	R9	R10	
—	30	32	34	36	

(新)

① 消防団充実強化事業					
<b>【事務事業目標】</b> 消防団員の平均年齢が引き下がっている。 大規模災害（地震・風水害等）時に適切な活動ができるように、大規模災害に備えた体制が確立している。	【目標指標（単位）】				
	新規入団者数（人）				
	基準年	R7	R8	R9	R10
	6（R5）	7	7	8	8
<b>【取組概要】</b> 実災害を想定した教育・訓練の提供を入団のメリットとしていきます。また、消防団の防災業務の中心を担う防災士の取得者数の増加、地域の防災訓練指導の回数を増加させ、消防団の防災力を強化していきます。	20～30代の新規入団者数（人）				
	基準年	R7	R8	R9	R10
	6（R5）	4	4	5	5
	消防団の防災士取得者数（人）				
基準年	R7	R8	R9	R10	
—	30	58 策定時 32	60 策定時 34	62 策定時 36	

修正概要 「目標指標」数値の変更(その他)

変更理由 田端西地区土地区画整理事業が令和8年度に完了することで、寒川駅南口の利用者の増加も考えられることから、整備時期を前倒しする。

① 寒川駅南口整備事業

【事務事業目標】

寒川駅南口のタクシー及び一般車の乗降場の供用により、町民が快適に行き来している。

【取組概要】

整備するための関係機関との協議、工事、供用を行います。

【目標指標 (単位)】

寒川駅南口整備事業の整備進捗率 (%)

基準年	R7	R8	R9	R10
0 (R5)	-	-	50	100

(旧)

① 寒川駅南口整備事業

【事務事業目標】

寒川駅南口のタクシー及び一般車の乗降場の供用により、町民が快適に行き来している。

【取組概要】

整備するための関係機関との協議、工事、供用を行います。

【目標指標 (単位)】

寒川駅南口整備事業の整備進捗率 (%)

基準年	R7	R8	R9	R10
0 (R5)	-	50 策定時 -	100 策定時 50	-

(新)

修正概要 「KPI」項目の変更 ・ 「KPI」数値の変更(下方修正)

変更理由 新婚生活支援補助件数を結婚新生活支援事業費補助金交付件数と結婚新生活支援行政ポイント付与事業件数の合計件数としているが、補助金交付は利用が見込めないため終了し、ポイント付与事業に資源を集中して拡充すること、及び過去の傾向を勘案し、申請件数を再推計した。

(旧) 日本では、婚姻数の減少が少子化の大きな要因の一つとなっていることから、少子化の解消には、婚姻数の増加を図る取り組みも必要です。次期において結婚から出産につながることを見据えて、今期においては、未婚の理由として多く挙げられている「出会いの機会」や「結婚資金」がないといったことへの支援に取り組み、関係人口の創出、転入促進、転出抑制等といったヒトの流れをとらえる施策を展開します。

ターゲット(Who)	結婚をしたくても機会を逃している人	取組 (How)	・出会いの場の創出 ・新婚生活への支援 など			
提供価値(What)	出会いの場 新婚生活支援					
KPI		基準値	R7	R8	R9	R10
新婚生活支援補助件数		—	150	150	150	150
町内での婚活イベントへの支援件数		1 (R5)	1	1	1	1

(新) 日本では、婚姻数の減少が少子化の大きな要因の一つとなっていることから、少子化の解消には、婚姻数の増加を図る取り組みも必要です。次期において結婚から出産につながることを見据えて、今期においては、未婚の理由として多く挙げられている「出会いの機会」や「結婚資金」がないといったことへの支援に取り組み、関係人口の創出、転入促進、転出抑制等といったヒトの流れをとらえる施策を展開します。

ターゲット(Who)	結婚をしたくても機会を逃している人	取組 (How)	・出会いの場の創出 ・新婚生活への支援 など			
提供価値(What)	出会いの場 新婚生活支援					
KPI		基準値	R7	R8	R9	R10
新婚生活への支援件数		—	150	90 策定時 150	90 策定時 150	90 策定時 150
町内での婚活イベントへの支援件数		1 (R5)	1	1	1	1